



道

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.6 夏号



巻頭随想

デコボコ道だから人生は楽しい
道守は嬉しく楽しい自然保護

イルカ

特集

「とるば」が豊かに表現
風景・季節・旅心・道守心…
第1回フォトコンテスト入賞者発表

道守会議の輪

活動多彩、道守九州会議

10月6・7日「みちづくしin大分」開催

[街道を行く]

平戸街道の今

道守九州会議
設立趣旨

古代から、人々は共有の財産として、力を合わせて普請し道を守ってきた。道は暮らしを支え、産業を起し、文化を運び、人々を結びつけた。

なのに、道はいま、人々から、地域から遠い存在―子供たちが道路でキャッチボールや縄跳びをし、老人たちが縁台で将棋を指した風景はどこへいったのだろう。便利だが危険、車優先、大気汚染や騒音；心地よい広場の役割や「公共」を失ってしまったのだろうか。

私たちにも忘れ物がある。「道は行政の責任」と自宅前のごみや雑草、汚れなどにさえ知らん顔。空き缶どころか家庭ごみまでポイ捨て。「道普請」の心は一体どこへ。

心を痛め、道の美化や植樹・植栽などに取り組み人々が増えている。実践者を中心に「道を考えよう」という機運が高まりだした。道路行政も転換期、量から質へ、車優先の見直し、さらに住民と行政の「協働」という新しい潮流が芽生え始めた。新しい機運と潮流をまとめ大きな流れに―。それが「道守九州会議」設立の呼びかけとなった。

道守。その由来は万葉の昔にさかのぼる。道を守り旅人の飢えと渴きを潤す果樹を道に植えたという。現代の道守は、住民と行政とが協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。さあ、一歩踏み出そう。

CONTENTS

- 1 巻頭随想「デコボコ道だから人生は楽しい 道守は嬉しく楽しい自然保護」 イルカ
- 2 特集 「とるば」第1回フォトコンテスト受賞者決定
- 5 8月10日は道の日 8月は道路ふれあい月間
- 6 道守会議の輪…発足2年目の道守九州会議・10月6・7日に「みちづくしin大分」開催
- 8 私の好きな道「宝の海 有明海を堪能できる道」 北島悦子
- 9 「私たちの道守活動」紹介
- 12 土木遺産……………オランダ橋・青の洞門
- 13 街道を行く……………「平戸街道」
- 14 海外道事情 米国 「運転者と歩行者がアイコンタクトする道」
- 15 ご存知ですか 路上工事の不満を緩和 ゴールデンウィーク・盆・正月などは原則中止に
- 16 道守たちのトピックス/人物伝
- 17 道の声・人の声/お知らせ



表紙画:久富 正美 1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。
裏表紙写真:鳥越 英次郎 福岡県久留米市在住。「とるば」第1回フォトコンテスト グランプリ作品



人生はでこぼこ道ですね。そんな歌を作ったことがあります。平坦な道が続いたことはない。うれしいこともいっぱいあったし、つらいこともいっぱいあったから、よけいに幸せに感じられたのかな。人生の分岐点にさしかかると「こっちの道」という心を感じます。陶芸家志望がフォークソングの道へ。何で?と思うこともあったけど、その結果が今の私。

片道30分。歩けるけれど歩くと遠い。幼いころのお使い道が中学・高校、大学の途中までの約7年間、私の通学路でした。歩いて通いました。知っている人に会うと恥ずかしい。声なんかかけられちゃったら、もうどうしていいかわからない。目立たないようにお店の反対側をトトッと足早に。あの年頃は何もかも恥ずかしかった。通りは健在で、今はその思い出が楽しい。

高校時代、週3日はカバンとギターケースを両手に下げて往復。「重かった」記憶が不思議にない。「あの歌好きだからもう一回聴かせて」。自分が作った歌を友達に聞いてもらえるのがすごくうれしかった。

大分県佐伯市宇目の緑豊中学校の校歌作曲の話や南こうせつさんにいただいて、迷った俳句、四季折々9回ほ

デコボコ道だから人生は楽しい
道守は嬉しく楽しい自然保護

巻頭随想

イルカ

IRUKA

プロフィール

東京生まれ。74年ソロデビュー。翌年『なごり雪』が大ヒット。現在もコンサート活動を中心に毎年全国ツアーを続けている。大分県佐伯市宇目の緑豊中学校校歌「竹の海」を作詞・作曲。04年7月IUCN国際自然保護連合の親善大使に就任。たくさんの人々へ地球環境保護を呼びかけている。



ど訪ね、1年かけて作り直しました。初めて宇目を訪れた日は雨。しとしと雨で、ちょうど萌えだした緑がすごくきれい。宇目の道をたくさん歩きました。水と空気がおいしいから、お米や作物がおいしいんですよ。風土にあった自然の美しさを感じました。校歌「竹の海」は、いまもコンサートでときどき歌います。

今、私はIUCN(国際自然保護連合)の親善大使を務めています。世界中のさまざまな活動や人々に出会います。私の活動は主婦の目線です。道をきれいにする道守活動はごく身近な地球保護活動ですね。コンサートでいろいろな街を旅していると街並や道からも人の心が感じられます。この街の人たちは心穏やかに過ごしているんだなあ、もうちょっと緑が増えたら心が和むんじゃないかなあ、と。

インドネシアのバリ島の子供たちは朝起きて家の周りを掃除して、箒を持って学校へ。学校でも掃除。「家の周りをきれいにすれば福がくる」「玄関の周りをきれいに」―明治生まれの義母に言われました。せめて靴を揃えるだけでも。まず自分から、家族から、街から。大人から。身近なことから出発、その姿が大切だと思います。家の周りを、道を、町を、地球を美しくすれば、うれしいことや楽しいことにつながって、多くの人と和やかな気分を分かち合えそう。道守のみなさん、ありがとう。

フォトコンテスト入賞者発表!

「至る所に美しい風景…」 グランプリ・鳥越さん

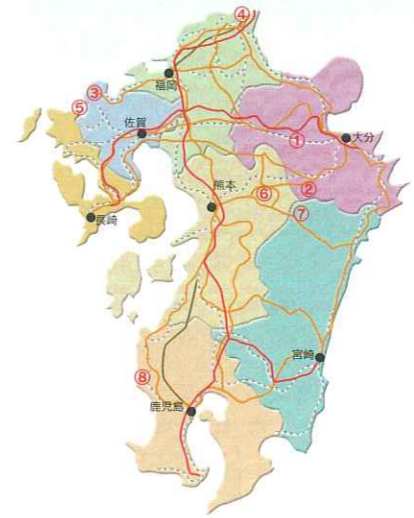


ちょっと駐車場に車を止めて一息。景色を、季節を楽しもう。写真も撮ろうーそんな呼び掛けで始まった「フォトスポット&パーキング」事業。「とるぱ」は「撮るパーキング」の愛称です。

「とるぱ」記念の第1回コンテストがスタートしたのは昨年末。3カ月で405カ所620点もの応募がありました。応募の多さ、写真に収められた各地の駐車場からの風景の美しさ、表現力の豊かさ。どれもこれもが驚きでした。今号の特集は入賞作品の一挙紹介です。

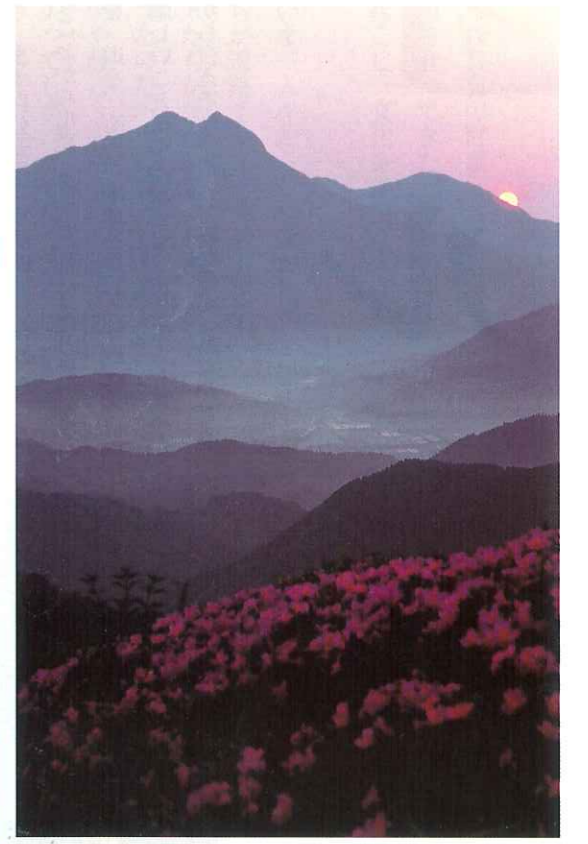
「とるぱ」写真は多くのことを語ります。身近な風景の再発見。季節感の再実感。風景や環境を大事にとエコツーリズムやシーニックバイウェイ（寄り道観光）への旅心。応募作品の風景の影に「もてなし心」を込めた道守活動があることも分りました。

(敬称略)



東島 治男 審査委員長 総評

審査するにあたり、応募作品総数を気にしたり、良い作品がどの位あるかな?等と心配したりしましたが、審査会場に入ったらそんな思いは吹っ飛んでいました。たいへんな力作揃いで審査委員の意見も割れる位でした。そんななかで、入賞作品を決めさせていただきました。(社)日本広告写真家協会 九州支部長



由布岳遠望

大分県大分郡由布院町 蛇越展望所駐車場から
受賞者 鳥越 英次郎



撮影場所の蛇越展望所

この度はグランプリという栄えのある賞をいただき、感激しています。美しい風景は至るところにあると思います。同じ場所でも季節が変われば風景も変わります。この受賞を励みに美しい風景を探しながら写真を撮り続けていきたいと思えます。ありがとうございます。ありがとうございました。

エピソード

太陽が冬だけに近いところから上るのを撮影するには夏至の頃が良いです。今回撮影の準備をしていて、まわりが少し明るくなってきた展望所の上段と下段の間に美しい花が咲いているのに気付きました。急いで三脚を花の後ろに据えて由布岳と日の出を狙って撮ったのが今回の写真です。

審査員 寸評

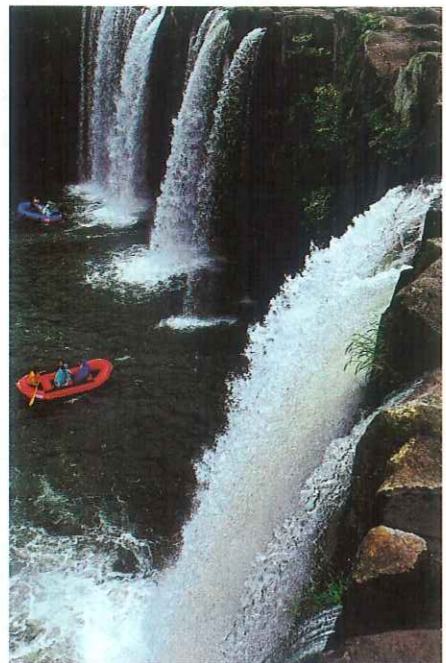
近景、中景、遠景のバランスと、朝霧がかかる平地や、朝やけの空のグラデーシオンが良いですね。画面構成のトリミングも良いです。控えめな日の出の扱いがよい。

2

原尻の滝



大分県 豊後大野市緒方町 道の駅「原尻の滝」から
〔受賞者〕 長 吉秀



エピソード

この滝は東洋のナイアガラといわれ、特に梅雨の時期は水量も多く迫力があります。15年程前の道の駅がまだ無い頃から通っていました。年中この辺りは色々な撮影スポットがあります。春は近くで行われるチューリップフェスタと合わせ撮影しています。

審査員 寸評

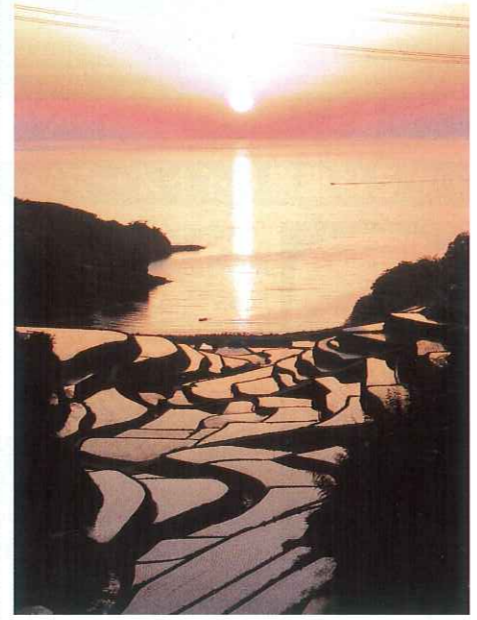
滝つぼに落ちる水をハイアングルから、そして高速シャッターで止める事により静止しているが動感を出し、それが逆に迫力があり良い感じですね。ポートと人をあしらう事で遠近感が出て、右手前の滝を強調するフレーミングでより強調された優秀作。

3

夕日と棚田



佐賀県東松浦郡 玄海町 浜野浦棚田 駐車場から
〔受賞者〕 玄海町役場 産業課



エピソード

「全国棚田100選」に選定された海に向かって広がる棚田。海に沈む太陽が水田と海面をオレンジ色に染め上げ、畦道が複雑な陰影を作ります。

審査員 寸評

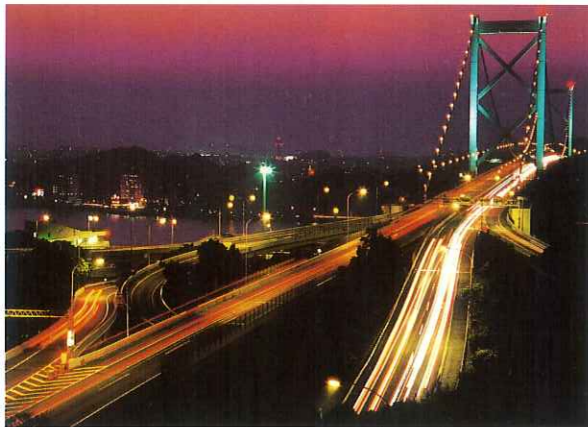
「夕日と棚田」、太陽の位置、時間等此処を撮るには絶好のシャッターチャンスだったのでないでしょうか!海も風ぎでグッドタイミングにポートも良い位置にきた。こういうシチュエーションは滅多に無いですよ。ラッキー、よし!とシャッターを押された光景が見えそうです。

4

光るハイウェイ



福岡県北九州市門司区源平合戦の壁画前駐車場から
受賞者 外尾 英介



エピソード

この場所には5年間通い詰めています。未だ納得のいく写真が撮れません。にも関わらずコンテストに応募させていただきました。この作品は空の色を出すのに苦労しました。出来ればもう少し空を赤くしたかったのですが...

とるぱを彩る道守活動

緒方町チューリップフェスタ 地元住民らの協力で 滝周辺が花の絨毯に



昔、「緒方五千石」と称された穀倉地域・大分県豊後大野市緒方町。町には平野の真ん中が陥没してできた原尻の滝があり、住民らによるいくつものボランティアグループが連携を取りながら周辺の美化に取り組んでいます。年に2、3回は道路脇の草むしりとゴミひろいを実施、毎年11月中旬には滝周辺にチューリップの球根植え作業を行います。チューリップが開花する4月には毎年恒例の「緒方町チューリップフェスタ」を開催。色鮮やかに咲き誇る約150種類、約43万本のチューリップは住民らの協力が育むネットワークの結晶です。

(豊後大野市社会福祉協議会 緒方支部 佐藤泰子さん)



8月10日は「道の日」

8月は「道路ふれあい月間」、8月10日は「道の日」。九州各県で様々な取り組みが始まっています。道守九州会議は行政との連携を深め、市民・利用者の立場から、より身近に「道」とふれあい、考え、愛護する活動を展開します。月間における道守活動強化をはじめ、パネル展やシンポジウムなどの啓発や学習事業、新しい道守の創出・育成にむけた道守体験事業など各地でさまざまな事業を実施します。

「道路ふれあい月間」は道路とふれあい、道路の大切さを認識し、道路に対するいたわりや愛護の心を高めてもらうことを目的として定められたもの。「道の日」は大正9年8月10日に日本で最初の道路整備の長期計画である第1次道路改良計画が実施されたことに由来し、昭和61年度に制定されました。

8月は「道路ふれあい月間」 多彩な企画、道守活動と行政の連携で

- ▽活動強化月間としての個々道守活動の推進
- ▽地域での一斉清掃美化
- ▽道ふれあい学習ツアー（親子、育児など）
- ▽歴史街道ウォーク
- ▽ボランティア活動意見交換会
- ▽広報啓発事業（道守パネル展、ラジオ・タウン誌などでの広報）
- ▽道守体験事業（新規道守の創出、児童の総合学習や親子体験など）

「道路ふれあい月間」 推進標語優秀賞に佐賀の原さん

「道路ふれあい月間」の推進標語募集(国土交通省主催)で九州から2人が入選した。作品はポスターやチラシに使用される。

優秀賞

庭掃除 その手でちよつと 道掃除
佐賀市・原峻一郎さん

「人の心に留まる標語は、平凡な言葉で平凡でない表現をするのがコツ。いつも庭掃除のついでに家の前の道掃除をしており、今回はそのままを詠んだ。道は国づくりの根本、人間という動脈。皆で大切にしたい」

優良賞

いい暮らし いい明日支える いい道路
福岡県田川市・原田祥一郎さん

「スーパーへの買い物、ドライブ、観光……。道があつてはじめて、日々の豊かな暮らしが成り立つ。きれいで清潔な道路を、歩行者もドライバーもマナーを守りながら日々の暮らしに活用してほしい」

5

特別賞 土谷棚田の夕景

長崎県北松浦郡福島町 土谷棚田駐車場から
受賞者 福島町 産業経済課



日本の棚田百選の中にあつても高い土谷棚田は、玄界灘に沈む夕陽が水面にオレンジ色に映し出され幻想的な景観を醸し出します。また、田植え時期に行われる火祭りでは、棚田の畦に立てられたたいまつが棚田の特徴でもある美しい曲線を浮かび上がらせるとともに、篝火で照らす水面も一際神秘的です。

6

特別賞 氷の華(古閑の滝)

熊本県阿蘇市一の宮町 古閑の滝駐車場から
受賞者 石津 幸次



古閑の滝を知ったのは3年前の情報誌でした。毎年通い今年初めて凍結した滝を見ることができました。1年目、2年目は暖冬だったことと休みのタイミングが合わず今年1月に入ると寒波が続きすばらしい氷の滝が見れました。

7

特別賞 高千穂峡「真名井の滝」

宮崎県西臼杵郡高千穂町 高千穂峡駐車場から
受賞者 飯千 金光



渓谷が深いために、太陽光線が滝に当たると正午ごろ。木漏れ日が斜めから滝に当たり神秘的な感じになります。

8

特別賞 人形岩

鹿児島県薩摩川内市西方町 西方海水浴場駐車場から
受賞者 薩摩川内市役所 建設調整課



薩摩川内市西方海岸にある「人形岩」は、東シナ海に面し、晴れた日には海上約25km先に浮かぶ甕島を望むことが出来ます。また、近くには西方海水浴場もあり、海水浴、サーフィンのメッカとなっております。ここから沈む夕日は絶景です。お気軽にお立ち寄りください。

とるばを彩る道守活動

土谷棚田保存会 美しい棚田の魅力を 幻想的な火祭りでもアピール

「日本の棚田百選」に認定されている長崎県福島町土谷地区の棚田。美しい棚田の魅力を町おこしに役立てようと、2003年4月に地元住民で保存会を結成し棚田の景観保持につとめています。毎年、田植えを終えた5月初旬に「土谷棚田火まつり」を開催しています。テーマは「空き缶で町おこし」。7ヘクタールの棚田の畦道に2000本の松明を設置し、日没と同時に点火。炎の明かりによって闇の中に大小100枚の棚田が浮かび上がる光景は実に幻想的。全国各地から訪れる写真愛好家の皆様からも大変好評いただいています。

(土谷棚田保存会会長 永田恵さん)



とるば標識など順次整備中!

「とるば」スポットで、駐車場の位置を案内するための「とるば」標識、駐車場から撮影スポットまでを案内する案内板、撮影場所を案内するフォトスポット標識の整備が始まっています。とるばマークの標識を見つけたら近くのとるば駐車場に車を停めて、フォトスポットまで行ってみてください。



フォトスポット標識



この先200m 霧の滝駐車場



とるば案内板

とるば携帯サイトオープン!



<http://www.torupa.com/mobile/index.php>

携帯電話で「とるば」情報の紹介を始めました。お出かけ時にはケータイサイトでもとるば情報をチェックしてください。

QRコードでアクセス!

QRコード対応の携帯電話をお持ちの方は、こちらのQRコードからアクセスが可能です。



とるば情報大募集!!

第2回フォトコンテスト開催中!

現在、第2回とるばフォトコンテストを開催しています。コンテストの対象は平成18年2月28日までに投稿された全ての作品となります。第2回コンテストも豪華賞品を用意していますので、ぜひご応募ください。

とるば(フォトスポット&パーキング)情報の投稿要領

- 投稿内容
 - ・あなたが紹介したいとるば情報
 - ・あなたがみつけたとるば情報
 - ・あなたがフォトスポットで実際に撮った写真

※九州内に限ります。(沖縄除く)

■とるばの条件

次の2つの条件を備えているものとします。

●撮影場所(フォトスポット)

優れた景観が有り、観光客の方が写真撮影を楽しめる場所。

●駐車場(パーキング)

観光客の方が安全・快適に駐車でき、そこから撮影場所に歩いていけること。

■撮影対象(フォト)の例

- 自然景観(海、山、花、朝焼け、夕焼け等)
- 文化的景観(城跡、文化遺産、史跡等)
- 都市景観(街並み、夜景、橋梁、道路等)

※人物が写っている場合は、肖像権侵害等の問題が発生する恐れがあるため、対象外とします。



詳しくは「とるば」ホームページをご覧ください。 <http://www.torupa.com/>



発足2年目の道守九州会議

道守交流会、とるば、シーニックバイウェイ…今年も活動が目白押し

道守活動広がり、運営会議も大型化 17年度計画を決定

発足2年目に入った道守九州会議の運営会議と道守通信編集会議の平成17年度の初会合が6月2日、福岡市で行われました。樗木武代表世話人をはじめ九州各県の世話人、道守通信編集委員、参与、行政関係者、事務局など総勢約50人が参加。道守活動の定着を印象付ける大型会議となり、本年度の活動計画などを決定しました。

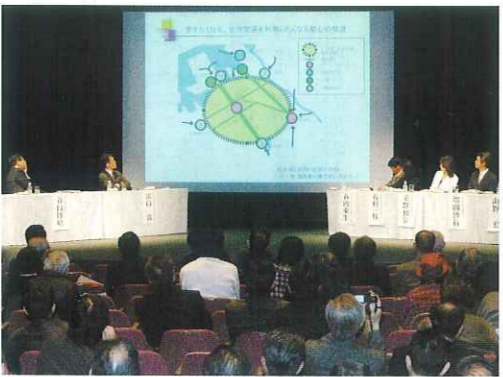


九州の道守が一堂に会する「みちづくしin大分（道守九州会議交流会2005）」（次ページに詳細）について各県道守会議から寄せられた分科会テーマ案を検討。「道を勉強する」「道を楽しむ」「観光振興」などのキーワードが上がり、実行委員会できらに検討を進めることになりました。駐車場からの美しい風景を写真にゆつくりドライブで道を楽しむ狙いの「とるば」（写真を撮るパーキング）については、作品コンテストの取り組みなどが新聞各紙や情報誌などで取り上げられ、反響が大きいことを確認。「各スポットの評価は道守で」「旬や時間帯などもっと詳しいお

すすめ情報を」「情報提供の方法に工夫を」などの声があがり、おすすめ度や評価のあり方について検討することになりました。道守活動と関連を深めようと関心が高まっている「シーニックバイウェイ」（寄道観光）の取り組みに関しては「目標を明確にして地域の意識を高揚し、活性化へ」「もっと話題提供をお願いしたい」という意見が出されました。今後、道守九州会議として「シーニックバイウェイ」にどのように関わり、どのように情報発信していくかは、大きな課題のひとつです。道守ホームページのリニューアル（7月から）、道守の顕彰、道守体験事業、名刺・のぼりの制作、各種広報活動の強化についても意見が交わされ、引き続き道守九州会議の活動基盤を充実させていくことで合意しました。また今回の会議で、新しく古賀武司副代表世話人（社）九州・山口経済連合会専務理事）の就任が決まりました。

福岡を歩いて楽しい街へ 日本初の「都市型シーニック」の可能性を探る

3月、福岡市の都市交通シンポジウム「九州の都心・福岡の魅力を高める」道」を考える都市交通シンポジウム「福岡・博多」MACHI/MIC HI「ブランドの創造―都市の魅力づくり、その交通マネジメント」(西日本新聞社・天神モビリティタウン協議会主催、マナーアップ天神宣言実行委員会・道守九州会議など後援)が3月26日、福岡市中央区天神のイムズホールで開かれ、約30



0人が参加し、地下鉄七隈線の開通や福岡都市高速道路、福岡外環状道路など道路・交通ネットワークの変化に対応する新たな都市観光戦略を討論した。基調講演で石田東生・筑波大学教授が米国や北海道が進めるシーニックバイウェイ(寄道観光)を紹介し「北海道は雄大な自然を生かした自然型シーニックバイウェイ、福岡では都市型が可能」と提言した。パネル討論では「九州の手法となるような、歩いて楽しい街に」(桑野和泉・由布院玉の湯社長)、「警固や大名など夜間は道をライトアップし表情を変え

よう」(増田博行・福岡国道事務所長)、「道路名を愛着の持てる名前に変えるのも一案」(谷口博昭・国交省道路局長)などの意見が出た。出口敦・九州大学大学院助教授は「今ある道をどう使いこなす、道づくりを街づくりにつなげていくか。地域の人たちにとって道はいい教材になる」と総括し、福岡の美しく楽しい街並みと道づくりを合体させる日本初の「都市型シーニックバイウェイ」の可能性を探るスタートとなった。「パネリスト」石田東生(筑波大学院教授)▽増田博行(国土交通省福岡国道事務所長)▽山野宏(福岡市副市長)▽石村一枝(石村萬盛堂専務)▽桑野和泉(由布院玉の湯社長)「コーディネーター」出口敦(九州大学大学院助教授)「アドバイザー」谷口博昭(国交省道路局長)

九州の道守たちが一堂に！ 道守九州会議交流会2005

10月6・7日「みちづくしin大分」開催

2005年の道守九州会議交流会「みちづくしin大分」を10月6日(木)7日(金)の2日間、大分県別府市を拠点に開催します。道守大分会議、大分県幹線道路協議会道守部会が中心となって準備を進めています。

「みちづくし」と名付けた道守たちの交流集会は昨年の熊本に続き、大分開催

が2回目。昨年は熊本城内のホテルや緑地を舞台に分科会や歴史街道探訪などが多彩に繰り広げられました。「みちづくし」交流集会は九州の道守たちの祭りでもあり、楽しみながら道に関する情報や課題を学習し共有する催しです。交流会の詳しい内容は次号の道守通信

でお知らせします。

■日程：平成17年10月6日・7日
6日(木) 13:00〜オープニング、分科会、記念講演、全体報告会、総会

7日(金) 現地学習会、18:00〜交流集会

■お問い合わせ：道守九州会議事務局

(社)九州地方計画協会内

TEL・092・473・1057



みちづくしin大分実行委員会の様子

道守サインボードが登場
福岡県前原市内
国道202号沿い4カ所に

「みちはみんなの財産です」「この道路はボランティアによる点検活動が行われています」。

こんなメッセージや道守活動の紹介などを掲げる道守サインボードが福岡県前原市の国道202号沿い4カ所に登場しました。前原市では「こ



みゼロ青春探検隊まえばる」やイオン九州(株)、マックスバリュ周船寺西支店などが参加して、快適な道づくり活動に取り組んでいます。道守サインボードは道守活動を紹介すると同時にドライバーや歩行者に「ポイ捨て禁止」「道路美化」を呼びかけ、さらに道守活動への参加を促す狙いで、国土交通省福岡国道事務所が設置しました。看板には大きく道守マークがあり、地元の道守たちからは「活動に魂が入る」、住民からは「地域への愛着心や誇りが持てるようになる」との声もあがっています。8月の「道路ふれあい月間」には前原市の広報誌でも紹介される予定です。(こみゼロ青春探検隊まえばる 酒井忠彬)



波瀬ノ浦大橋(国道207号線)



道の駅「鹿島」の朝焼け

宝の海 有明海を堪能できる道 国道207号 佐賀県太良町



干潟よか公園



北島 悦子 プロフィール

福岡県添田町生まれ。佐賀県小城市在住。三日月町で始めた「おはなし会」の活動をきっかけに、同町図書館の初代館長を3年間務めた後、県立女性・生涯学習センター・アバンセ副館長で県知事特別補佐を務めた。道を研究する会ロードネット佐賀会員、特定非営利法人有明海ぐるりんネット会員、(有)博賞堂薬局業副師。



へさせる店や旅館、ホテルが並んでいます。
「竹崎かに」はワタリガニですが、おいしいのは有明海の恵。海のプランクトンなどが1日1回ある日は2回、干潟で日光を浴びて良い味、良い餌となって、これを食べる「竹崎かに」がおいしくなるそうです。肉がしっかりしていて、茹でて、刺身やてんぷら、酢物にして、蟹づくし。おまけに一带は温泉が湧き、海を眺めながらの蟹と温泉三昧。冬なら牡蠣もおいしい。牡蠣小屋が立ち、とれたてを焼いて食べる。
宝の海・有明海。風景や味を自慢したくて遠来の客があれば国道207号の小さな旅に連れ出すのです。
その魅力が増えています。「道の駅鹿島」に続いて最近、太良町に直売所「たらふく館」ができ、有明海の海の幸や近隣の

宝の海・有明海。お薦めの場面は「四つ手網」です。有明海独特の漁法の「四つ手網」は交差させた竹竿に網が張り、その網を4本の柱で支え、縄を使って網を上げ下げして魚を獲る。広い海のなかの人の小さな営み、シンボルが4本の柱と網目。懐かしい、と感じる風景です。一度、間近に網の中の魚を見たかと思っ

宝の海・有明海。私が207号をよく走るの、実は、太良町の竹崎地区の蟹を食べに行くからです。国道沿いに蟹を食



私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題を向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく書かれて楽しい地域づくりのために九州各地の道守会員が取り組んでいるスタイルもアイデアもさまざまな活動を紹介します。

地域からの報告 長崎編

多彩な活動 道守長崎会議 まち歩き博覧会「長崎さるく博、06」開催

道守長崎会議はルート34ワークショップ実行委員会(阿野史子代表)が原動力となり、昨年8月に発足。地域の道路の植栽、清掃、調査活動、街づくりなどさまざまな道守活動に取り組んでいます。また、道守長崎会議独自のホームページ(現在リニューアル中)による情報交流、行政や他団体との連携啓発活動にも力を入れています。

新大工商店街で花一杯キャンペーン

ドイツ年の行事の一環として、長崎市の新大工商店街で花一杯キャンペーンを行いました。当日は地元商店街の青年部の皆さんや子供たちと一緒に道守長崎会議のメンバー、ロードスターズやルート34ワークショップのメンバーも参加して、賑やかな植栽となりました。現在も地元商店街の方たちが水遣りなどの世話をしっかりと行っており、とても綺麗です。商店街の買い物客からも喜ばれています。今後このようなイベントがあれば、道守長崎会議のメンバーに呼びかけてお手伝いをしていこうと思います。

日本ではじめてのまち歩き博覧会「長崎さるく博、06」開催
長崎市では、2006年、日本ではじめてのまち歩き博覧会「長崎さるく博、06」を開催します。「さるく」とは、長崎弁で「まちをぶらぶら歩く」という意味。長崎さるく博は、日本と中国、西洋の「和華蘭」文化が混在する「わからんまち」を、ゆつくり歩いて、その魅力を再発見しようというイベントです。今年7月30日から10月16日までイベントを行います。まち歩きには3つのメニューがあります。コースマップを見ながら自由気ままに散策する「長崎遊さるく」、ガイドさんに案内してもらいながらまちを歩く「長崎通さるく」、専門家による講座とガイドツアーがセットになった「長崎学さるく」。興味にあわせてメニューを選び、気軽に楽しみたいだけですね。
長崎さるく博の開催期間は、2006年4月1日から10月29日まで。長崎市内一円が会場です。見て、触れて、食べて、あなただけの長崎を見つけてください。(長崎さるく博、06推進委員会 TEL095-811-0306 http://www.sarukuhaku.com/)



長崎さるく博イメージキャラクター

35号花の会(長崎)

国道沿線の花壇が舞台 日々の活動を大切に



自分たちの手で国道35号沿線の花壇を美しく。そして佐世保の街をより良くしたい。そんな願いから平成15年6月に結成したのが同会。ちょうど『ゆめ総体』を目前とした時期、佐世保京町商店街の有志を中心とする約15名の会員が集まりました。

結成以来、市の中心にあたる京町商店街を心のオアシスに、と日々活動中。年に2回以上の花の植え付けをはじめ、水やりや除草など毎日欠かさず手入れを行っています。活動を通してメンバーそれぞれの美意識も高まりました。花を植える姿を通行人やドライバーに見ていただくことで、道路を大事にする心や草花を愛でる気持ちを伝えられたらと思っています。

以前はゴミの投棄が多かった花壇も、花を植えてからはかなり減少。当初の目的は達成されつつありますが、今後も活動は続けていきます。



(深堀 和子)

インフィオラータin黒崎宿実行委員会(福岡)

花びらの絨毯で 心とむ道に



北九州市の副都心黒崎は都市圏有数の商業の町。しかし最近では商業地域としては厳しい状況も続いています。

商店街に賑わいを取り戻す。そのきっかけづくりとして、商店街関係者

や地元の中・高校、行政が力を合わせて行った取り組みが「インフィオラータin黒崎宿」です。インフィオラータとはイタリア語で「花の絨毯」、花びらを使って道に絵を描くのです。今回は約500人のボランティアが黒崎商店街のアーケード内の道路をキャンバスに、30万本のチューリップの花びらで様々な花絵を描きました。道幅の広いアーケード内には巨大な花絵が20枚も完成。「花の香りに心が癒される」「心とむ」とお客様からも好評で、準備の苦勞も吹き飛ばしました。これからも楽しんで歩ける道を演出することで、商店街の賑わいにつなげていけたらと思います。(西山 陽子)



ロードネット佐賀(佐賀)

車座でワイワイ

みんなで「みち」だんぎ



4月初旬、佐賀市で

「ワイワイ「みち」をきたろうくるま座だんぎ」を開催。特別ゲストは「女性の声」「みち」をひらく」の著者でもある衆議院議員・古賀誠氏、国土交通省技監・佐藤信秋氏、衆議院議員・今村雅弘氏、九州地方整備局局長・宮田年耕氏、佐賀県知事・古川康氏。畳間に県地図を開き、ゲストも参加者も車座に。誰もが同じ視線で「みち」談義。「歩くみち」「人のみち」「つながりのみち」について、暮らしの中で感じている思いや意見を自由に交換しました。地元食材の話にも花が咲くなど活気あるひと時に、古賀先生や佐藤技監は「このような形の会合は初めて。意義深かった」。参加者からも「私たちの意見を同じ視線で応答いただき感激した」との感想が多数寄せられ、感無量でした。今年度も秋ごろ計画中、皆さんの参加をお待ちしています。(三原 ユキ江)



まっちゃん活かそう会(熊本)

歴史ある「土蔵白壁」の 町並みを後世に伝えたい



不知火町松合地区は、江戸末期から明治中期に建てられた「土蔵白壁」が美しい町です。平成4年、傷みが激しかったこの歴史的建造物を何とか保存したいと有志14名で当会を発足。以来、土蔵白壁の整備に取り組むと共に、毎月第三日曜日に



「まっちゃん朝市」を開催。町を通る県道が国道266号に格上げになる記念に始めたもので、今年で12年目を迎えました。他にも、「まっちゃんハゼ釣り大会(11年目)」、土蔵白壁の町を描く「親子スケッチ大会」等、様々な活動を行っています。

地域住民の理解と「松合の町並保存会」の協力の



もと、平成9年に県で3番目の「景観形成住民協定地区」に指定され、平成14年には「美しい街並優秀賞」を受賞。今後も、この歴史的財産を後世に残せるよう、町の美化はもちろん、保存活動にも一層力を入れていきます。(坂本 順三)

浜中建設株式会社(宮崎)

花と緑と心を豊かに 元気なむらづくりを



日南市富士は国道220号沿いの戸数60戸150人が居住している小さな集落。温暖なこの地域ではかつて多くの住民が農業に携わり、エンドウ豆等の野菜類を豊富に生産していました。現在は若い世代の働き場が近隣の町へと移行。集落で農業に取り組んでいるのはごく一握りに。伊勢海老の水揚げなど一部に盛況さがありますが、もう少し活力のある村にしたいものです。

そんな中、花と緑と心の豊かな村づくりをめざして、10名の会員で集落内の里道広場周辺や河川の堤などの整備を開始。季節の花木の植栽に励んでいます。梅雨前には植栽の準備と挿し木に追われ、いい汗を流しました。桜の植樹も終わり、次は沿道の花壇への花の植え付けです。今後の目標は住民全員の参加。小学校児童との協働活動などを通して道守活動の裾野を広げたいと思っています。(浜中 章輔)



別大国道マイツリー活動(大分)

湾岸道路の街路樹を 多くの里親とともに育む

別大国道は別府湾に沿って走る湾岸道路。景観的にすばらしく、大分県のシーニック・バイウェイとしての役割も果たしています。



平成16年9月25日、この別大国道の一部区間に50本の街路樹を植樹。「別大国道マイツリー活動」として、道守大分会議のマイツリー会員がお世話をしています。この活動は県内各地から応募が集まった家族やグループが街路樹の「里親」になり、ホルトノキやシマトネリコの植樹を体験。その後の水やりや周辺掃除も行いながら、時間をかけて自分たちの木を育てていく取り組みです。



これまで2回の一斉美化活動を実施。「ユニークな取り組み」ということで、活動の様子は東京新聞の「街路樹特集」でも紹介されました。私たち自ら汗して植えた木がスクスクと育つように願うこの頃です。(竜野 辰三)

協和フラワーロード(鹿児島)

海潟温泉にかつての 活気復活を願って



かつて肝属半島唯一の観光温泉だった海潟温泉。道路の拡張工事が温泉場を含む3集落に及んだ時、私たちは以前のような活気ある温泉地の復活を願わずにはいられませんでした。



まず歩道はカラータイルで再整備してもらえように住民の希望を提出。美しく改装された橋には「海潟温泉橋」の名をつけてもらいました。道沿いの植込み部分はボランティアアロードとして私たちが手入れを行うことに。この道を1年中四季の花で飾ろうと立ち上がったのが「協和フラワーロード」の会員です。会員数は75名。地域おこしのために始めた活動であり、これに全面的に協力してくださった国道事務所には感謝の気もちでいっぱいです。今も道路の美化整備に「道守」の真心で取り組みながら、感謝の気持ちを伝えています。今後も協和地区の地域おこしのためにも活動を続けていきます。(長濱 兼満)





竹む者を圧倒する雄大な渓谷の郷、大分県耶馬・日田・英彦山国定公園。その表玄関である中津市本耶馬溪町の景勝地・競秀峰の麓を山国川沿いに走ると、やがて優美な石橋が姿を現す。橋の名は耶馬溪橋。山国川周辺地区の観光・生活道路整備の一環として大正9年(1920年)から12年(1923年)にかけて、村人らの寄付により架橋された。形式はわが国唯一の8連石造りアーチ橋。当時、長崎県で多く見られた平行布積み方式の工法を採用したこともあり、オランダ橋とも呼ばれている。美しい弧を描く8連アーチ橋の全長は116m、幅員は3・5m。アーチ数と橋長の規模はともに日本一。規則正しく並ぶ輪石や壁石にかつての精緻な石工技術がうかがえる。昭和56年(1979年)には県指定有形文化財に指定された。

架橋以来、数多の水害にも耐え忍んできた。昭和19年の大洪水ではコンクリートによる修復も行われたが、平成8年(1996年)に新たな亀裂を確認。修復方法を決める際には石橋の権威者や県文化課らが協議をし、大正時代の写真を参考に昔ながらの姿が残された。山郷が全国に誇る名橋のひとつといえよう。

耶馬溪橋(オランダ橋)



先人の技と心が息づく、石橋と洞門の本耶馬溪。

荒々しい岩肌が迫る本耶馬溪には山国川沿いにふたつの土木遺産がある。8連アーチの石橋・耶馬溪橋と、全国的にも名高い青の洞門。渓谷の郷の誇りでもある土木遺産を訪ねて水面を走り抜ける山風も涼やかな夏、川沿いの道を走る。



青の洞門

洞門の完成以前、断崖ひしめく競秀峰は人馬が命を落とす鎖戸の難所だった。惨事を目の当たりにした禅海和尚は村人らの安全のために洞門開通を決意。托鉢をしながら資金を集め、わずかな人夫を雇い、自らもノミと槌を手に、実に30年の歳月を費やして342mの洞門を完成させた。一般的に知られる洞門工事の概要である。洞門の完成時期には諸説があるが、本耶馬溪町史によると工事は大きく2期に分けて進行。初期工事が寛延3年(1750年)、2期工事が明和元年(1764年)にそれぞれ竣工を迎えたとされる。山国川の障害は洞門の完成により解消された。村人らの通行はもちろん、山国谷の農山資源の開拓、現代にも続く九州横断路の開発と、その影響は計り知れない。当時の洞門は明治時代、現在に近い形状で大幅に改修された。当時の軌跡は旧道の一部に残るのみ。しかし旧道に現存する小さなノミの跡は信念を持ち、道を拓くことの深い意義を我々に教えてくれる。



耶馬溪橋より350mほど南下すると青の洞門に差し掛かる。菊池寛の小説「恩讐の彼方に」の舞台、本耶馬溪きつての名所である。



平戸街道の今

長崎県・平戸

向学心を胸に平戸をめざしたかの松陰も厳しい道中に苦戦。

「この道は本当に険しい。吉田松陰の西遊日記にもその様子が描かれています」。平戸街道ネットワークの会長・宮本尚美さんはそう語る。平戸街道ネットワークの会では街道周辺の草刈や清掃活動を行い、毎月1回、街道を歩くイベントを開催している。



宮本尚美さん

「ウォーキンググッアアを」通して街道の史実を語り伝えたい。宮本さん自身も幾度となくこの街道を歩いてきただけに、きつと松陰の心情が分かるのだろう。と思いきや、「どうやら彼はぬかるんだ道を大量の銅銭を腰に巻きつけて歩いていました。うで、疲れるはずですよ」。

歴史には思わぬ話が隠れて



出発してすぐ登り坂が続く

平戸藩が管理した平戸往還(田平ノ船ノ峰峠)、大村藩が管理した大村往還(船ノ峰峠ノ東彼杵)。両往還を総じて平戸街道と呼ぶ。

西遊日記によると萩藩の兵学家だった松陰は嘉永3年(1850年)に兵学と陽明学の研究を目的に長崎街道より平戸街道へ入り、城をめざして北上している。江迎宿で宿を探すも難航。やっとの思いで宿泊先を見つけた

をみつけた時は精根尽き果て、軒先



吉田松陰腰掛石

掛けて疲れを癒したという。松陰が座った腰掛石は今も江迎中央公園内に現存。町を見下ろす石のある場所に立つ。風が何とも心地いい。松陰にもこのような癒しの風が吹いたことを願いたい。

山中を尾根伝いに歩く難ルート。江迎本陣での一泊に心潤う。



松浦家の居城 平戸城

平戸城は島の上。藩公出張の折、城を出た藩の一行は日之浦瀬戸を船で横切り、対岸の港に到着する。島へ入る人も島を出る人も、誰もがこの港に立った。かつて平戸でイギリス商館の開館に尽力した、青い目のサムライ「三浦按針(ウイリアム・アダムス)も、この小さな港を利用していただろうか。港のすぐ近くには「平戸街道の出発点」という看板が立っている。いきなり急な登り道だ。当時の地図を見ると、平戸街道はよほどの湿地帯



平戸街道の出発点

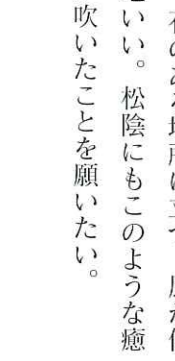
や急峻な山でない限り、直線コースをたどっている。2点間をつなぐ道は直線ルートが最短距離。よって道は山深き森林の尾根を伝い、いくつもの峠を越える険しさに。少々の無理は体力と気力で乗り切る。昔の人は根性があった。泊地は松陰も休んだ江迎だ。町の県道沿いには今も藩主専用の宿舎・江迎本陣の屋敷が江戸期のまま残されている。本陣裏山へと続く広大な庭園までもが実に見事。庭の隅から聞こえてくるのは涼やかな水琴窟の音。心潤う本陣でのひと時がどれだけ一行の慰めであったか、この地に佇むとよくわかる。



江迎本陣(長崎県指定文化財)



元禄十二年松浦吉岐守領分給図(松浦史料博物館蔵)



ご存知
ですか？

九州地域路上工事縮減に関する行動計画を策定

路上工事の不満を緩和 ゴールデンウィーク・盆・正月などは原則中止に

国土交通省九州地方整備局と九州各県・政令市・日本道路公団・福岡北九州高速道路公社で構成する九州幹線道路協議会は、不満の多い路上工事について、工事量を減らす、工期を短くするなど行動計画（アクションプログラム）を策定しました。

72%が路上工事に不満

これまでも報道等で「年度末の路上工事は税金の無駄遣い」など、路上工事縮減の必要性が言われ続けてきました。昨年8月に実施した「九州の道路に関するアンケート調査」では、72%の人々が、「渋滞の原因」「年末年始や年度末に集中」など路上工事に対して不満があると回答。路上工事縮減が大きな課題であるとして、行動計画を策定することとなりました。

工期短縮、工法も工夫

行動計画は、九州内の高速道、福岡と北九州両政令市の都市高速道、国道、県道の道路上で行われる通行規制を伴う工事を対象とします。工事削減の具体的な方法としては、次の通りです。

工法や構造の
工夫・変更

工期を短縮した
施工業者の評価

休日、終日工事
の実施

近接する工事は
同時施工

また、年末年始や年度末に工事が集中しないよう発注の前倒し、広報の強化も行うようにします。

● 道路についてのご意見・ご提案・ご相談を受け付けています ●

九州地方整備局「道の相談室」 ☎0120-106-497 FAX092-476-3514
ドロー ヨクナレ [24時間毎日受付]

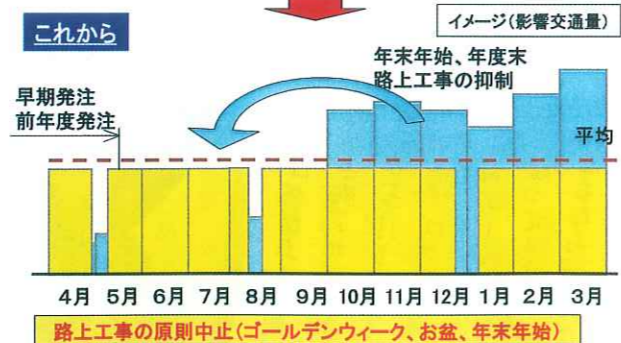
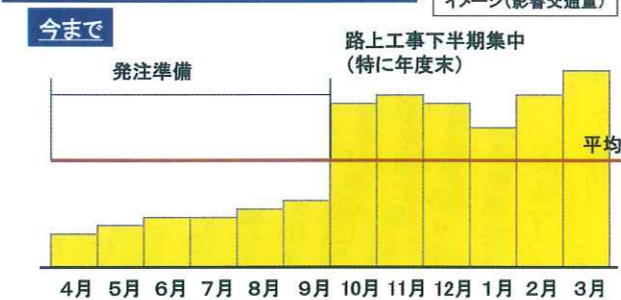
● E-mail m-soudan@qsr.mlit.go.jp ● HP http://www.qsr.mlit.go.jp

作業時間を年間に分散

特に工事が集中し、住民の不満が多い年度末の3月は、路上工事の「抑制期間」として、一年を通じて工事作業を分散するよう道路管理者に求めます。また、年末年始や大型連休中の工事は「原則中止」。地域によって交通への影響が変わるお祭りや観光イベントなどの期間は、地元で中止期間を設けることができます。

具体的な数値目標として、本年度は九州全体の幹線道路で、来年3月の工事日数を前年同月より8%、影響交通量を同15%減らすことを目標としています。また来年度以降も継続して、住民の不満軽減を図っていく方針です。

早期発注及び前年度発注による平準化



アメリカと言うと、誰しも自動車の国との印象が強いことだろう。実際に、都市開発の傾向を見ても、自動車交通に依存した郊外の大規模住宅地やショッピングセンターの開発が続々と行われている。しかし、そうした過度に自動車に依存した都市開発を見直し、環境と歩行者に優しい都市づくりを目指す「ニューアーバニズム(New Urbanism)」という運動が、近年のアメリカの都市計画分野で大きなトピックスとなっている。

既に、フロリダ州のシーサイドやメリーランド州のセントラリスといった住宅地が、ニューアーバニズムの実際のモデルとして建設されている。そうした事例では、半径1/4マイル(約400m)程度を基本的な規模とし、歩行者優先の道路構成とする伝統的隣開発の住居の考えに基づいて計画されている。

ニューアーバニズムでは、こうした実践的活動に加え、都市計画や交通工学の専門家らが共同で研究し、住宅地内における歩行者にやさしい交差点部のつくり方などの新しい基準などを提唱している。例えば、一般には交差点部のカーブの半径は、自動車の回転半径に依拠している点を見直し、カーブ半径を従来より小さく設定することを提案している。隅切り部を小さくし、歩行者が交差点の車道部分を横断する距離(横断時間)を縮めるとともに、交差点部に進入する自動車のスピードを低減させることとなり、より歩行者に優しい安全な交差点が形成される。

こうした基準は、「住宅地内の良い交差点とは、横断する歩行者と自動車の運転者との間でアイコンタクトが取れる交差点である」とのユニークな考えに基づいている。そのために、交差点部の半径が自動車の回転半径に依拠している点を見直し、自動車が交差点に進入するスピードを低減させる交差点部の設計基準などを提案しているのである。

特に、住宅地内の生活道路においては、歩行者優先で歩行者と自動車が安全に共存する基準が求められるが、これは世界共通の課題でもある。アメリカで発達した自動車社会ではあるが、そのアメリカにおいて道路の基準の見直しと、新たな基準の研究が実践的な観点から取り組まれているのである。



ニューアーバニズムのモデルであるフロリダ州のシーサイドの住宅地内の道路



運転者と歩行者がアイコンタクトする道

米 国



出口 敦 氏
プロフィール

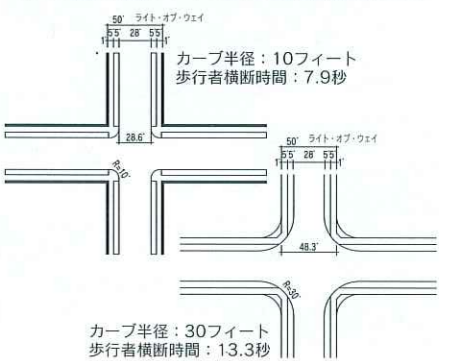
九州大学大学院人間環境学研究院助教授。1997～98年米国MIT客員研究員。専門は都市デザイン、都市計画。研究テーマはアジアの都市、道路景観。



メリーランド州のセントラリスの住宅地内の歩道とまちなみ景観

交差点部のカーブの ガイドラインの比較

左下：交差点半径10フィートと、
右下：交差点半径30フィートでは、歩行者の横断時間が異なる



出典：日本建築学会編「建築設計資料集[地域・都市II-設計データ編]」九巻・2004年。原書はInstitute of Transportation Engineers: Traffic Engineering for Neo-traditional Neighborhood Design (1994)。

佐賀商3年生が通学路清掃 佐賀商業高の3年生約300人が、佐賀駅北口から市文化会館までの通学路を、ゴミばさみと袋を手に清掃した。約1時間でゴミ袋約30袋分の植木やたばこの吸い殻、空き缶などを回収。「自転車で登下校しているが、ゴミは結構目立つ。通学路がきれいになれば、うれしい」と学生。

拳法道場が「ごみ拾いで心も鍛練」 福岡県稲葉町の拳法道場・護身術拳法が4月10日「体だけでなく、心も鍛えてもらおう」とごみ拾いに取り組んだ。児童や大人ら約30人が、道路沿いの空き缶などを回収。バイクのタイヤやマフラーも落ちており、「子どもたちは宝探しのよう張り切っていたが、こんなにごみが落ちていて、大人として恥ずかしい」と参加者。

阿蘇登山道の案内標識に方位名 熊本県の阿蘇地域振興局は渋滞緩和を促進しようとして、阿蘇山上への登山道路4ルート名称を、「東登山道」など方位名で表示することを決めた。整備中の「阿蘇の絵文字を用いた道路案内標識」に順次明記していく。「スローな阿蘇づくり・阿蘇カルデラツーリズム」の一環。「分かりやすい名称になり、交通の分散化につながる」と同振興局。

町を彩る525鉢のチューリップ 佐賀県江北町のJR肥前山口駅の周辺道路や広場が赤、白、ピンク、紫などのチューリップで彩られ、散策を楽しむ町民らが増えている。福祉作業所・ギャラリー「ちゅうりつぷのうた」が中心となり企画。江北中学校などに協力を呼びかけ、スタッフや通所者と一緒に花を育てた。

道路美化促進事業に日産九州工場など 福岡県の「県さわやか道路美化促進事業」の実施団体に、京築地区で初めて菊田町の日産自動車九州工場とアルテア橋本九州工場が決まり、認定証が交付された。県が清掃用具を提供、市町村がごみ処理で協力する同事業。両工場長は「地域に愛される工場を目指し、道路美化に努めたい」と話していた。

鹿児島弁で道路の愛称を 鹿児島商工会議所が新幹線開通後の街づくり戦略を提言。史跡などがあり観光客が訪れる道路に鹿児島弁を取り入れた愛称の制定が盛り込まれた。この他にも、街路灯に統一性のあるデザインを導入、江戸時代の天体観測所のモニュメントなど天文館のランドマーク建設などを提示。

不老山登山道にポピー3万本 長崎県の松浦インターパーククラブが、松浦市志佐町の不老山総合公園入口から駐車場までの登山道(約1キロ)脇に植えたポピーを、松浦市に寄贈した。同クラブは昨年10月から、社会奉仕活動の一環として登山道脇を整備。1月に種をまき、今年4月から毎週土曜日の朝や夕方に除草作業を行ってきた。

日田林工生が清掃奉仕活動 日田市吹上町の日田林工高等学校の生徒が4月20日、近くの月隈公園や花月川周辺で投げ捨てられたペットボトルや落ち葉などを拾い集めた。生徒会の呼びかけで4年前から毎月1回実施しているもの。1・3年の約80人が参加。「登下校中にごみがないと気分がいいですね」と生徒。

平戸大橋の周辺を清掃 長崎県の平戸インターパーククラブが4月14日、平戸市と田工高校の生徒が4月20日、近くの月隈公園や花月川周辺で投げ捨てられたペットボトルや落ち葉などを拾い集めた。生徒会の呼びかけで4年前から毎月1回実施しているもの。1・3年の約80人が参加。「登下校中にごみがないと気分がいいですね」と生徒。



宇佐神宮参道の道守は
イチイガシの里親
是恒咲さん(69歳) 大分県宇佐市

「ダメ元でやるだけやってみよう」と思っ。議論するだけでは前に進まないから」。

大分県宇佐市の宇佐神宮のみやげ物店をつくる
仲見世会(高橋宜宏会長)

が参道約250mのイチイガシの里親になる。「アダプトプログラム(里親制度)だ。10年前に植えたイチイガシは高さ約7m、計35本。木を守り育てる里親は草取りや周辺のごみ収集などを月1回以上行う。高橋会長の提案に是恒咲さんは真っ先に賛成。同プログラムの委員長を引き受けた。元国鉄マン。若いころから非番の日は家で「宇佐館」を作り続け、今は店主。「多くの人に里親になるなら言うことなしだね」。参道・里客が増え、商売にもプラスになるなら言うことなしだ。

親・道守・商売と地域の活性化と、新しい挑戦は家外身近だ。

道の声
人の声

「道の声・人の声」は読者のみなさんの投稿欄です。ご自由に意見や随想、「道守通信」の感想などを郵便または「道守」ホームページの投稿メールでお寄せください。字数は200〜300字程度、写真も受け付けます。本誌に採用分には記念品を差し上げます。

地域の資産として
愛される道づくりを

今日の道は、大半が車のための道となっていますが、そのためドライバーの意識も車優先といった運転がとて多いように思えます。生活道路であっても抜け道となっているところでは、その地域以外のドライバーが40km/h以上の猛スピードで走り抜けていきます。昔は子供たちが遊びまわり、ご老人たちも散策を楽しんだりする風景も、こうしたドライバーたちの意識の欠如によって奪われてしまっているようです。車に便利な道作りだけでなく、地域の人が安心して利用でき、地域の資産として愛される道作りをもっと進めていくべきではないかと思えます。(福岡市西区・本利昭)

東京で関心を惹く
シーニックバイウェイの魅力

時間が自由になって海外旅行はレンタカーで周遊するようになった。アメリカドライブでは、次の景勝地まで少々遠回りになってもシーニックバイウェイを走る。その道は風景が素晴らしい。静かでひと気のない絶景を前に、食事やコーヒーをのんびりと楽しむ。整備された道路には余分なものもなく、ドライブそのものも爽快だ。

東京に所在するNPO(特定非営利活動法人)EJISANから、新宿で開催する「セカンドライフセミナー」や「海外ドライブ旅行を楽しむ」の講師を依頼された。内容はレンタカーで海外を旅する楽しさを話して欲しいとのこと。当然シーニックバ

イウェイも話題になる。私が撮ったシーニックバイウェイの写真を見せて、その風景のすばらしさや道路の実情を話した。地図や案内書も持参、ドライブに必要な十分な情報が掲載されている。ドライブ体験で得られた満足感、解放感なども詳しくふれる。セミナー参加の熟年世代は、団体ツアーとはひと味違う海外旅行に大きな関心を寄せる。気ままな個人旅行だから時間が自由になるとか、希望する観光地に行けるとかかと思いつかれる。そのうえシーニックバイウェイで得られるさまざまな魅力を知り、レンタカーで旅する素晴らしさを一段と認識されるようだ。

参加者の中で次のように発言された方がおられた。「夫婦で行くドライブ旅行は、日常生活から解放されるうえ、お互いの協力が必要だし、語らいの時間も多くなると、仕事人間からおさらばして家庭に戻るひとつのきっかけをもらたしてくれ」と。

問もなく退職時期をむかえる団塊の世代は、マイカー所有の第一世代だ。これからはシニア世代のドライブ旅行が盛んになるだろう。国内で安心して手軽にドライブ旅行が楽しめるよう、各種の整備が図られることを期待したい。

(道守通信春号海外道事情寄稿者 千葉県習志野市・尾崎信也) EJISAN
(http://www.ejisan.org/index.htm)

「道守九州会議」からのお知らせ

愛称「とるば」
フォトスポット&パーキング
道守九州会議では、国土交通省九州地方整備局と連携し「とるば」(フオトスポット&パーキング)情報を募集しています。詳しくは本誌2ページからの特集、「とるば」ホームページ、「とるば」携帯サイトを参照ください。

(http://www.toruba.com/)

道守ホームページリニューアル!

道守活動や関連イベントなどの情報をメールやCD、FDなどデジタルデータをお寄せいただければ、道守ホームページや機関誌「道守通信」でかたんに紹介できます。応募・投稿フォームは道守HPにあります。ご活用ください。

道守会議交流会2005

「みちつくしin大分」開催
10月6日(木) 7日(金)の2日間、道守会議の交流会「みちつくしin大分」を大分県別府市で開催します。道に興味を持つ人たちをお誘い合わせのうえ、ふるつてご参加ください。詳しくは7ページの記事をご参照ください。

まちづくりに関する
夢・アイデアを募集!

「あなたの夢、アイデアを設計図にしてみませんか?」まちづくりに関する自由な発想や、個性的なアイデアを広く募集しています。詳しくは(社)建設コンサルタンツ協会九州支部のホームページをご覧ください。
(http://www.jcca.or.jp/kyokai/kyushu/)

入会申し込み
問い合わせ

(社)九州地方計画協会内
「道守九州会議」事務局

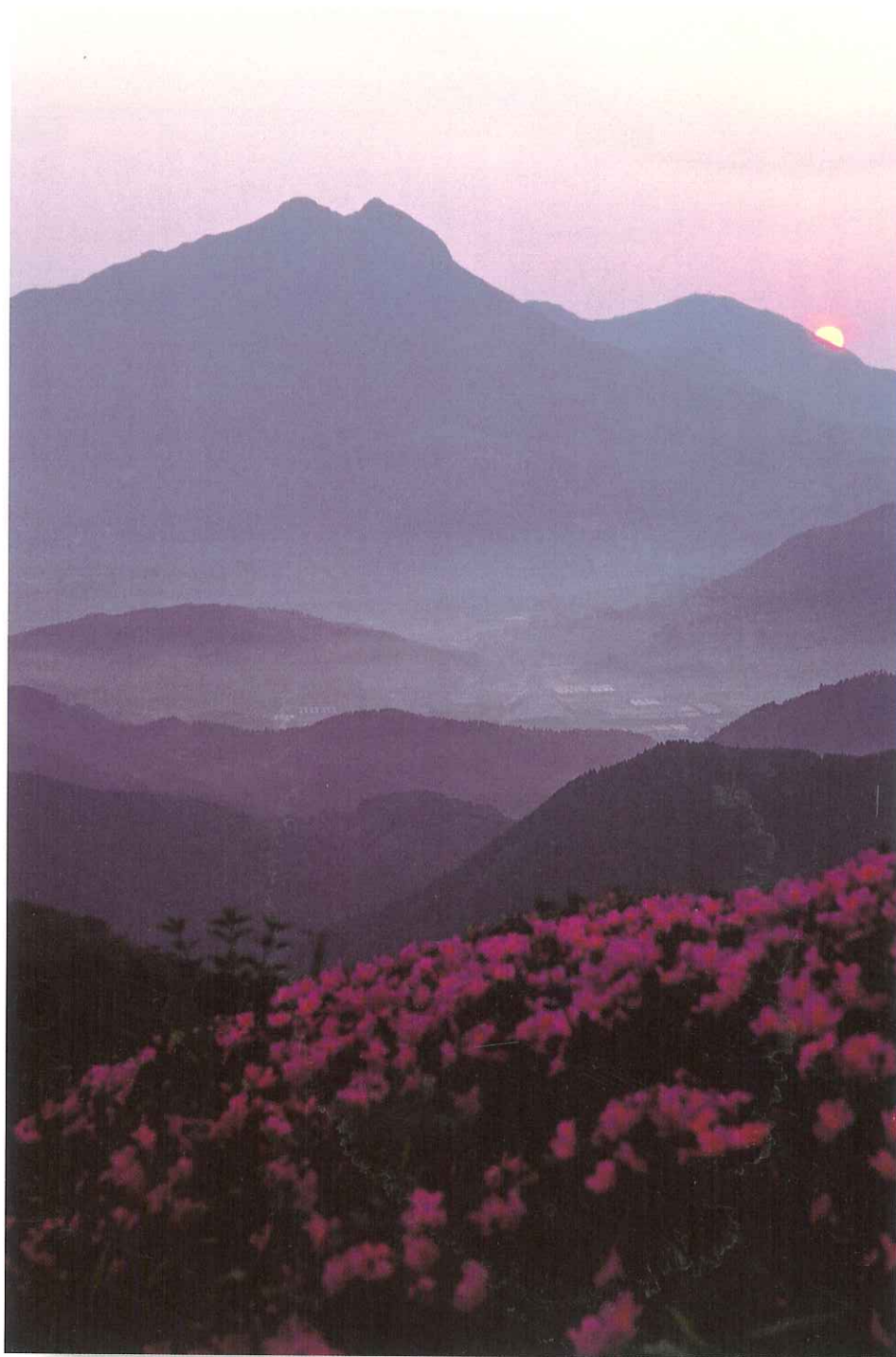
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533
(ホームページも参照ください。申し込みも可能です)

■道守HP <http://www.michimori.com>
■e-mail michimori@michimori.com


「道守通信」
編集後記

「道守通信6号」完成、「とるば」フォトコンテスト第1回受賞者の発表など楽しい情報をお届けします。道守のホームページも充実して来ましたので皆様是非ご覧になって下さい。最近九州では玄海地震をはじめ思いがけない災害が相次いでいます。これから本格的な梅雨に入り大雨による水害、さらに台風災害による道路の寸断など心配ですが、こういう時こそ日頃培った道守の連帯感で行政と共に地域を守りましょう。

(編集委員・阿野史子=ルート34ワークショップ代表)



「とるば」第1回フォトコンテスト
グランプリ作品【由布岳遠望】鳥越英次郎氏

 大分県大分郡由布院町
蛇越展望所駐車場

【三脚を花の後ろに据えて由布岳と日の出を
狙って撮ったのが今回の写真です。】

※本誌P2からフォトコンテスト入賞作品を掲載しています。



広報誌「道守通信」夏号
平成17年6月30日発行

■発行「道守九州会議」

■事務局 (社)九州地方計画協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号

TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533

●「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>

● e-mailアドレス michimori@michimori.com

定価 300円 (消費税を含む)